

2023.05.31

福岡県糸島市

可也山 (かやさん) 親山 (おやま) 登山口周辺散策

(可也熊野神社、親山 (おやま) 登山口、親山虚空蔵堂 (おやまこくぞうどう))



# 可也熊野神社のホームページより 御由緒Pedigree

鎮座地 福岡県糸島市志摩小金丸282番地

鎮座年詳 年詳不詳 ※花園天皇朝（1303年～1319年）

御祭神 伊弉冉尊（いざなみのみこと）  
事解男命（ことわけおのみこと）  
速玉男命（はやたまおのみこと）

例祭日 12月第2週の土日（住吉12月14日・15日）



福岡県糸島市で長い伝統がある神社として、厄祓といった御祓を執り行っております。神事、行事は古くから行われ、地域の方から親しまれてまいりました。熊野神社では万物に神様が宿ると考え、自然の恵みに感謝し、ものを大切にすることを送ってきました。神々しくそびえる山々や樹齢を重ねた老木、大きな岩等を神様の坐(ま)しますところとして、仰ぎ奉り、社を建ててお祭りを厳修してきたのです。

また、自分の人生を振り返り、生きる姿勢を正すという意味も込めて、厄祓いを厳重に行い日々慎んで生活することが大切です。厄祓を受け新しい心構えで今後の人生に臨んでください。



2023/05/31 14:28  
可也熊野神社駐車場



ニワゼキショウ(庭石菖) アヤメ科  
北アメリカ原産の帰化植物



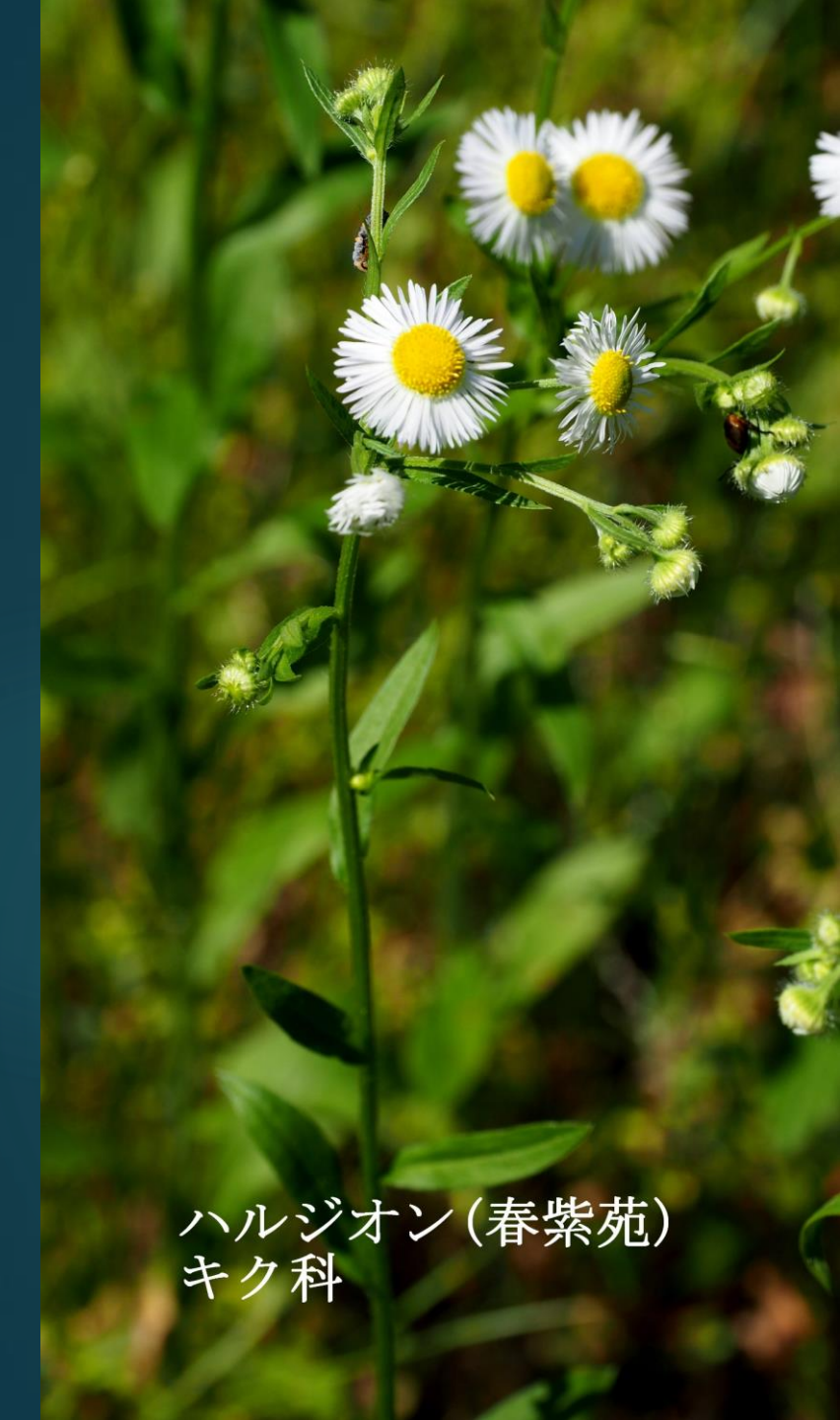
コメツブツメクサ(米粒詰草) マメ科  
別名：キバナツメクサ、コゴメツメクサ



ニワゼキショウ(庭石菖)  
アヤメ科  
北アメリカ原産の帰化植物



トキワハゼ(常盤櫨)  
ゴマノハグサ科



ハルジオン(春紫苑)  
キク科



狛犬



狛犬



2023/05/31 14:33  
可也熊野神社

2023/05/31 14:35  
可也熊野神社





2023/05/31 14:36



2023/05/31 14:36  
可也熊野神社



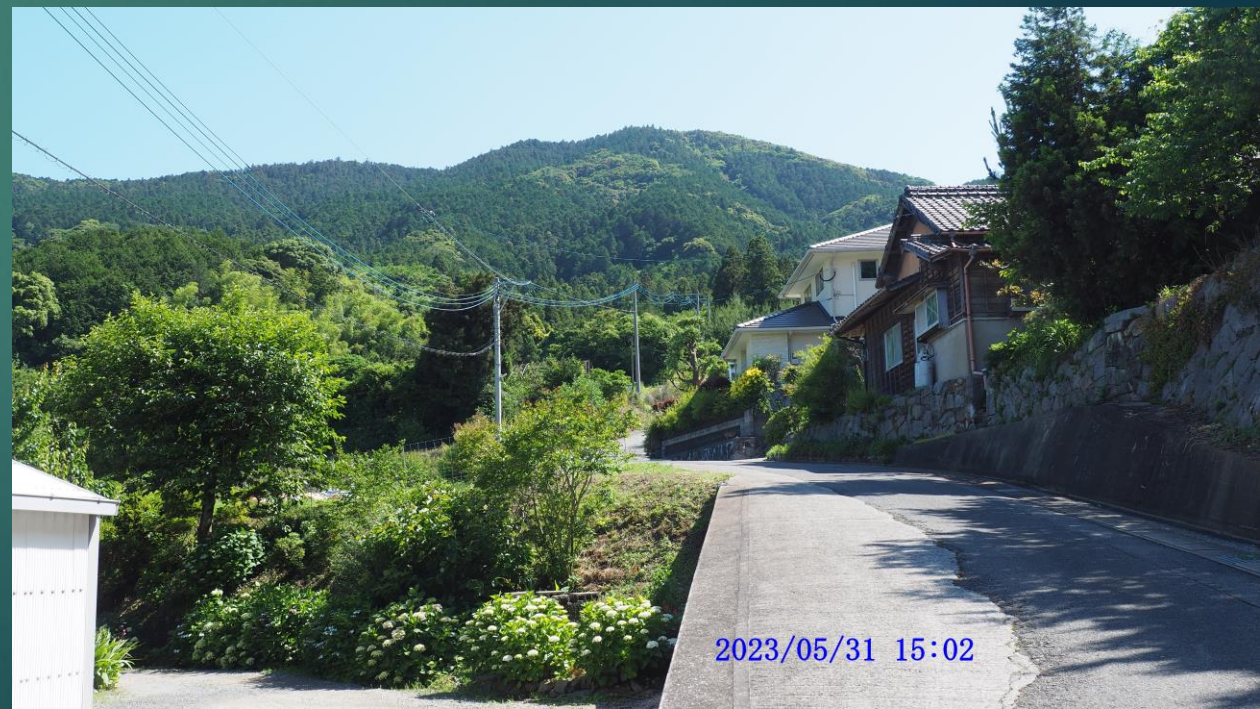
2023/05/31 14:36  
可也熊野神社



モンキアゲハ (紋黄揚羽) オス  
アゲハチョウ科









2023/05/31 15:08



2023/05/31 15:08  
駐車場 (3台分)



2023/05/31  
15:09



可也山

虚空蔵堂

親山自然遊歩道  
虚空蔵堂～可也山展望所  
野草、岩石、鳥の声を楽しめます  


遊歩道親山ルート 

2023/05/31  
15:13

ノミノツヅリ (蚤の綴り)  
ナデシコ科 帰化植物

ノミノツヅリ (蚤の綴り)  
ナデシコ科 帰化植物



# 親山虚空蔵堂

←この先300m

親山虚空蔵堂管理組合

2023/05/31  
15:13



2023/05/31  
15:20



ヤマツツジ(山躑躅)  
ツツジ科 半落葉低木



2023/05/31  
15:23

虚空蔵堂について  
ここは、その昔住山開基といひ可也山北而中腹大伽藍が  
おられた時中心地す  
付近は十の僧坊ありましか足利時代争乱廢寺  
同様に産産産産土面觀音堂大自和木菩薩如來  
等の堂舎祀み此處産産寺に現存至ておます  
知恩後かり頭頂に祀りて水鏡堂信て頭頂寺印を  
快慰されお祀りた日木鏡を作て返すといひ  
伝えあります  
親山内の子孫大坊補坊坊山引地不崩経の限  
字水風石谷 赤か谷 花茶原 茶園堂 親山田 地鏡田  
師事此の檀坊 神物御坊 常楽坊 龍門 御堂堂の  
地を遊修の從釋等は名残といふ  
本願期位 つし親山石階をまき 心字池掘りつた  
の存いもりま 四月五日の餘日に親蔵知人を指し  
集落寺で文祭りし、また、昭和二十八年五月に  
平蔵十一年三月 休修の申す土面觀音の像が、相國県の  
文化財指定をいした  
この觀音は、親山從來より全下丸なる均寺の  
檢出此觀及所の補助金加九か木村会館を親山  
生産林組合の山林の保護使用し堂を面改茶全像  
を佛像置した、また、同堂及土屋等は、丁供供養  
茶籠村、平蔵十五年四月十三日、かつて縁日、法慶堂  
を営みした  
私達親山の住民は、約千五昔の先達、後、後、後、の  
既産を守り披き、永後世に伝えて、とて、思ふます  
平成十五年四月吉日  
親山区



2023/05/31 15:24  
親山虚空蔵堂 (おやまこくぞうどう)

親山虚空蔵堂

系統古名師書

防犯カメラ録画中

防犯カメラ録画中

防犯カメラ録画中

2023/05/31 15:24  
親山虚空蔵堂 (おやまこくぞうどう)



# お寺めぐりの友より

## 歴史

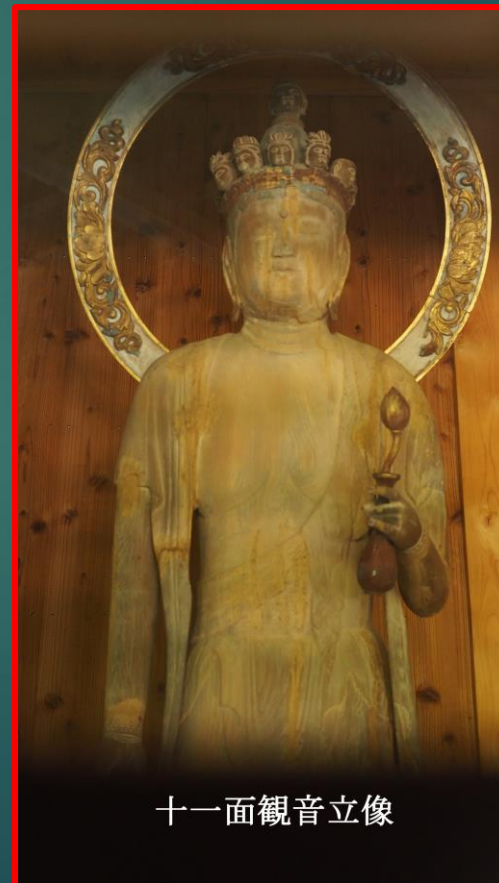
虚空蔵堂脇の石製の案内板の内容をそのまま記す。

### 虚空蔵堂について

ここはその昔往生山明星寺といひ可也山北面中腹に大伽藍があつた時代の中心地です。

付近には12の僧坊もありましたが、足利時代(1336-1573)の騒乱で廃寺同様となり、**虚空蔵菩薩・十一面観音・大日如来・薬師如来**等が一堂に合祀され、虚空蔵堂として現在に至っております。知恵を授かり頭痛にはお供えの木槌を借りて頭を軽く叩き、快癒すればお礼に歳の数だけ木槌を作って返すという言い伝えがあります。親山地区の千蔵坊・大坊・柿坊・姉坊・坊山・引地・不断経・経の隈・手水・風呂の谷・赤が谷・花の木原・薬師堂・観音田・施餓鬼田、師吉地区内の桜木坊・祈禱御坊・常泉坊・籠門・御堂坂等の地名や道傍の伽藍様等はその名残りでしょう。

大正(1912-1926)初期にはつつじを植え、石段を築き、心字池を掘り、つつじの名所にもなりました。4月13日の縁日には親戚・知人を招き集落挙げての大祭をしていましたが、昭和28年(1953)の豪雨により崖は崩れ、池は埋まり、お堂も痛み、大祭は止んでしまいました。



十一面観音立像



大日如来

# 親山虚空蔵堂



## 虚空蔵堂についての由来

その昔、この地には住生山明星寺があり、可也山北面中腹に大伽藍があったとされています。付近には十二の僧坊もありましたが、足利時代の争乱で廃寺同様となり、虚空蔵菩薩、十一面観音菩薩、大日如来、薬師如来等が一堂に合祀され、虚空蔵堂として現在に至っております。

知恵を授かり、頭痛にはお供えの木槌を借りて頭を軽く叩き、快癒すればお礼に歳の数だけ木槌を作って返すという言い伝えがあります。

親山地内の千歳坊、大坊、柿坊、坊山、引地、不断経、経の隈、手水、風呂の谷、赤が谷、花の木原、薬師堂、観音田、施餓飢田、師吉地内の桜木坊、祈祷御坊、常泉坊、龍門、御堂坂等の地名や道傍の伽藍様等は、その名残でしょう。

大正初期にはつつじを植え、石段を築き、心字池を掘り、つつじの名所にもなりました。四月十三日の縁日には、親戚、知人を招き、集落挙げての大祭をしていましたが昭和二十八年の豪雨により崖は崩れ、池は埋まり、お堂も痛み、大祭は止んでしまいました。



奉納された木づち

## 親山虚空蔵様のお祭り

ここは、地元親山では通称「虚空蔵様」といい、親山区住民の心のよりどころとして祭られてきました。お堂には、ご本尊の他に十一面観音立像、大日如来像、薬師如来と思われる像その他が合祀され、現在に至っています。この仏像の内、特に十一面観音立像は立派なものであるとは聞いていましたが、地元としては専門的な知識はありませんでした。

平成六年一月、木造十一面観音立像を九州歴史資料館に搬出し、鑑定、修復を行うと材質は榿材、十二世紀(平安時代)後期の作であり一木作り、内刳り(平安前期の技法)笑顔よく、文化的・学術的価値が極めて高いことが判明しました。

平成十一年三月に県指定(彫第五四号)文化財に指定され、九州歴史資料館に展示。県指定の文化財になった仏像を安置するには、今までのお堂では不備なので地域住民で話し合い全面改築を決定しました。その後、積立てを行い、可也山の杉・檜を切り出して親山虚空蔵堂として建築。平成十五年四月十三日に落慶法要を行い、昔からお祭りで作られていた「だご汁」や「虚空蔵様だご」などが復活しました。

現在では、毎年四月の第二日曜日に法要を行い、名物のだご汁や虚空蔵様だごのほか食べ物を持ち寄り参拝者に振る舞っています。また、境内でのアトラクションなども好評です。



春のお堂

お祭りの頃には境内のまわりに自生するサギソウ、イロハモミジの大木、ツツジ、シャクナゲ、山桜などが楽しめます。



アトラクション



だご汁の調理場



法要は廣福寺住職がつとめる



人気の虚空蔵様だご



地元青年のお店



山桜・ツツジ

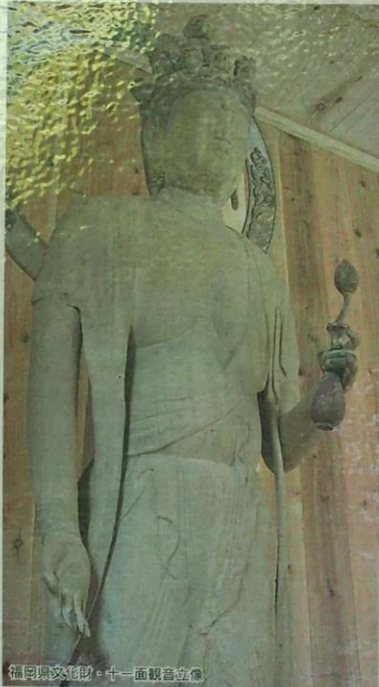


## 虚空蔵堂内に現存する仏像の説明

**【十一面観音立像】** あらゆる方向に顔を向け、十種類の現世利益と、四種類の来世の果報をもたらす

●梵字/キャ ●真言/オン・ロケイジンバラキルク・ソワカ

●ご利益/ 瘡癩をせず、つねに諸仏に憶念され、財持や衣食に欠乏せず、すべて怨敵を破り、衆生の慈悲心をおこし、虫害や暴病や、刀柱に害されず、火難や、水難をのかれ、横死しない現世利益。臨終時に諸仏を見る事ができ、地獄におちず、畜生に害されず、無量寿国に生まれる事ができる果報。



福岡県文化財・十一面観音立像

頭部に十一の顔を持つ観音のひとつで、きわめて古くから信仰され、そのため国内では最も多くの彫像、面等を残す仏像です。密教成立以前の奈良時代にも多く造立され、南都仏教の盛隆とともに近畿一円でも多く造られたが、平安時代以降になると密教の伝播とともに全国に普及していきました。

特徴としてはその名のとおり十一の顔があります。菩薩面三面、瞋怒面三面、狗牙上出面三面、大笑面一面、そして頭上に阿彌陀の化仏の計十一個あります。前後左右の十面は因位の十地を表し、最上の仏面は大十一地仏果を表し、この観音の教えは衆生の十一品の無明を断尽し、十一地の仏果を開かせる、という意味を持つといわれます。本面をあわせて十一面になるものや、九面のものなど小面の配列や数には様々なものもあります。

親山の木造十一面観音立像は、平安時代から鎌倉時代の過渡期に造られたものと思われま。その面貌と衣文の彫法に藤原期終末と鎌倉時代への展開を見せていて、かつ独自の技量を維持している仏師の作と考えられ、興味深い。その表情は当時盛行していた藤原仏とも、その後の鎌倉仏とも異なるもので、古様に従いながら中世の新しい風へ歩みだそうとする試行の跡が見られます。

躯体は一本造りで、胴体内部は大きく内刳されています。両腕は別個に作られ接合されていて、ここにも鎌倉仏と藤原仏の技法が混在して見られます。これらのこと

から、九州における古様式から新様式に転換する初期的な状況がこの十一面観音立像に表れていて、この時期における仏像造立の極めて珍しい例として注目されます。

修復前の十一面観音立像の頭部とても綺麗なお顔です



修復前の十一面観音立像

## 【虚空蔵菩薩】 知恵を増し記憶力を増大させる

●梵字/タラク ●真言/オン・バサラ・アラタンノウ・ソワカ

●ご利益/記憶力がよくなり、成績もあがる。

虚空蔵菩薩は、知恵を増し、記憶力をよくすることで有名で、その法は虚空蔵求聞持法として知られています。徳の高い僧侶は必ずこの法を修したといわれ、かの有名な弘法大師も広島島の厳島で、また、新義真言宗の祖である興教大師も修しています。

インドでは、虚空の母胎、蔵を意味する「アーカシャガルバ」と呼ばれる。それを訳して虚空蔵といいます。蔵とは巨大な宝庫のことで、すべてを納め、自在に人々に施しを与えることを意味する。また密教では金剛蔵、金剛宝ともいう。

虚空蔵菩薩は手に、如意宝珠を持つ。如意宝珠は、心もままにすべてのことをかなえる力を持つとされている。この如意宝珠を仏格化したのが虚空蔵菩薩であるといわれています。



虚空蔵菩薩

## 【大日如来】 マンダラの中軸をなす宇宙最高の仏

●梵字/バン (金剛界) ・アーク (胎藏界)

●真言/オン・サラダト・バン (金剛界)

ナウマク・サマダボダナン・アピラウンケン (胎藏界)

●ご利益/一切の病が癒える。また妊娠している人は無事安産できる。

大日如来は、密教の世界において最も尊崇され、その中心となる仏です。しかも仏法そのものがこの世に現れた姿であると考えられる。

インドでは、「偏く照らす」という意味の「ビルシャナ」の前に、「大」を意味する「マカ」を付けて「マカ・ビルシャナ」と呼ばれ、これを訳して「大日」としている。その智慧の光が日の光をし、宇宙のすみずみまで少しも残さず照らすことから大日如来と名付けられました。そして、太陽が全てのものの成長をうながすように、大日如来の智慧と光は、全てのものに宿る善種を育てるといわれています。



大日如来

## その他の仏像

虚空蔵堂には主体となる仏像群のほか、いくつか埋もれていた彫像がありました。今は朽ちて見る影もありませんが、大きな古木があり、これは薬師如来像と伝えられます。特にそれと分かる部分は残存していませんが、これが仏像であれば立像であり、復元するとかなり大きな像となることがうかがわれます。

また、十二神将と伝えられる小像がありますが、これはその形状から神像である可能性が高い。残るのは八体ですがその形状から坐像であることは間違いなく、頭上には帽子もしくは冠状のものが認められるため、残りが紛失したとすると、十王像とも考えられます。



薬師印像と確認されている



十王像と考えられている

